

「日本 カンボジア ティーンエイジ アンバサダー (高校生交流) 事業」を実施

両国の高校生32名がカンボジアで再会し、交流します

公益財団法人イオンワンパーセントクラブは、11月20日(月)から、カンボジア王国(以下、カンボジア)と日本の高校生32名が8日間の交流活動を通して親交を深める「日本 カンボジア ティーンエイジ アンバサダー(高校生交流)事業」を実施します。

当財団は、柱となる3事業*のひとつに「諸外国との友好親善の促進」を掲げ、1990年より、アジアを中心とした国々と日本の高校生が互いの国を訪問し、交流する「ティーンエイジ アンバサダー」事業を行っています。

カンボジアとの交流は、2000年、2013年、2016年に続いて4度目となり、今回を含めた当事業の参加国は18カ国、参加者は累計2,428名にのぼります。

このたびの交流は、本年9月の「日本 カンボジア ティーンエイジ アンバサダー事業」日本招聘プログラムに参加した、プノンペン市のバックトゥーク高校の生徒16名、県立鳥取西高校の生徒16名、計32名の高校生がカンボジアで再会し、「ティーンエイジアンバサダー」として、政府への表敬訪問や日本大使館でのパフォーマンス、代表者によるスピーチ等を行います。

なお、日本の高校生たちは、アンコール・ワット遺跡群とシハヌーク・イオン博物館の視察、シェムリアップ市の上智大学アジア人材養成研究センターでの講義を通じ、9月に日本で学んだアンコール・ワット遺跡の研究成果について理解を深めます。また、プノンペン市では障がい者と健常者が同じ教室で一緒に学ぶ小学校を視察する予定です。

その後、両国の高校生たちはバックトゥーク高校での授業体験、9月と同じペアでのホームステイを行い、相互理解をさらに深めます。

当財団はこれからも、アジア各国の未来を担う若者に相互理解を深める機会の提供を通じ、両国の友好親善の促進に資する活動を続けてまいります。

【2016年にカンボジアで実施した高校生交流の様子】



当財団が建設支援した小学校で交流する日本の高校生



ホームステイの様子

* 3事業：「次代を担う青少年の健全な育成」「諸外国との友好親善の促進」「地域社会の持続的発展」

【プログラム概要】

1. 期 間：11月20日（月）～11月27日（月）
2. 実施地域：カンボジア シェムリアップ市、プノンペン市
3. 参加者：日本（鳥取県立鳥取西高等学校）の高校生 計16名
カンボジア（バックトゥーク高校）の高校生 計16名
4. 主な行動予定：
 - 11月20日（月） 日本の高校生がシェムリアップに到着
オリエンテーション
 - 11月21日（火） アンコール・ワット遺跡群視察
シハヌーク・イオン博物館視察
上智大学アジア人材養成研究センターにて
アンコール・ワット遺跡に関する講義（予定）
 - 11月22日（水） プノンペンへ移動
認定NPO法人 難民を助ける会（AAR JAPAN）が
インクルーシブ教育*の支援を行っている小学校の視察
 - 11月23日（木） JETROプノンペン訪問・講義
政府表敬訪問
在カンボジア日本大使館にて歓迎会
 - 11月24日（金） バックトゥーク高等学校で授業体験、ホームステイ
 - 11月25日（土） ホームステイ
 - 11月26日（日） ホームステイ、フェアウェルパーティー
 - 11月27日（月） 日本の高校生が帰国

※インクルーシブ教育（Inclusive education）：

2006年に国連で採択された「障がい者の権利に関する条約」に基づくもので、障がいのある者と障がいのない者が可能な限りともに学ぶ仕組みの構築を目指している。

ご参考

【公益財団法人イオンワンパーセントクラブについて】

当財団は1989年、イオンの前身であるジャスコの誕生20周年を機に、「絶えず革新し続ける企業集団として、「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと設立されました。企業の業績にかかわらず継続的に活動するため、グループの主要企業が税引前利益の1%を拠出し、「次代を担う青少年の健全な育成」「諸外国との友好親善の促進」「地域社会の持続的発展」の3つを柱となる事業として、社会貢献活動を行っています。

※活動の詳細な内容はこちら (<https://www.aeon.info/1p/>) をご覧ください。

公式アカウント イオン1%クラブの活動をリアルタイムで紹介。

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|--|---|---|
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| ↑上のQRコードから友達追加 | | | Q 1_percent_club で検索 | | | Q 「AEON 1%」で検索 | | | |

【カンボジアにおける社会貢献活動について】

■「バットンバン義肢センター」支援（1998年～2000年）



公益財団法人イオンワンパーセントクラブ（以下、イオン1%クラブ）は日本赤十字社とのパートナーシップのもと、1998年より3年間にわたりカンボジア・バットンバン義肢センターを支援しました。同センターは、地雷で被害を受けた人々へ義肢の支給や、リハビリを通じて社会復帰を支援する施設で、イオングループ店舗、事業所での募金及びイオン1%クラブからの寄付金を併せた1億7,300万円を寄付し、支援にお役立ていただきました。

■学校建設支援事業（2000年～2003年）

長く続いた内戦によって失われたカンボジアの教育基盤の早期回復を願い、2000年よりイオングループ店舗、事業所での募金を実施し、イオン1%クラブからの寄付金をあわせ総額3億円を日本ユニセフ協会へ寄付しました。日本ユニセフ協会とのパートナーシップを柱に150校を建設し、これまでに約37万名の子どもたちが学校を卒業しています。



2001年 カンボジア

■「シハヌーク・イオン博物館」寄贈（2007年）

「シハヌーク・イオン博物館」は、上智大学アジア人材養成研究センターが2000年、2001年の期間に発掘したアンコール王朝期の仏像を保存・展示すべく、イオン1%クラブの寄付と上智大学の石澤良昭教授チームとアプサラ機構の協力のもと、建設されました。

カンボジアの文化遺産をカンボジアの方々の手により研究・保存いただくために国へ寄贈し、2007年11月の完成式典にはシハモニ国王陛下もご臨席されました。

■イオン・ユニセフ セーフウォーターキャンペーン



カンボジア、ラオス、ミャンマーの一部地域では、衛生的な水の確保が難しく、池の水や健康を害する恐れのある物質を含んだ地下水が生活用水として使われています。また、遠方への水汲みに時間をとられ、学校で学べない子どもたちもいます。イオン1%クラブは各国の子どもたちを健康・教育の両面でサポートするために、子どもたちがくらす村や町に給水施設を設置する、当キャンペーンを2010年にスタート。2016年までに3カ国累計で約49万3,000名、うちカンボジアでは37万9,000名の方々が安全な水を使えるようになりました。

■ティーンエイジ アンバサダー／イオン スカラシップ

「ティーンエイジ アンバサダー」は、イオン1%クラブによる日本とアジアの次代を担う子どもたちへ価値観の多様性とグローバルな視野を持つ機会を提供する国際交流事業で、1990年より実施しています。これまでに、日本を含む18カ国2,428名の高校生が交流し、うちカンボジアとのプログラムでは152名が交流しました。

また、日本で学ぶアジアからの留学生及びアジア各国の大学生・大学院生に奨学金を付与する「イオン スカラシップ」では、これまでに7カ国5,114名の学生に奨学金を支給し、うちカンボジアからの留学生及び同国内学生59名に奨学金を支給しました。

■アジア障がい者ものづくり支援募金



障がい者用通路とスロープ、トイレ

カンボジアをはじめ、アジア各国では社会福祉制度の整備が未だ十分に進んでおらず、障がい者に対する教育・就労支援が不足しています。イオン1%クラブは、学校のバリアフリー化や、障がいの有無に関わらず、子どもたちがともに学べる「インクルーシブ教育」の推進、職業訓練の実施など、障がい者の方々の自立と社会への参画に向けた取り組みを支援するため、2016年より支援募金を開始し、認定NPO法人 難民をたすける会（AAR Japan）を通じて、寄付を行っています。また、本年7月には、イオングループよりお預かりした環境にやさしいビニール傘「トップバリュ fururi」（カンボジアで製造）の売上金の一部を贈呈しました。

■岡田卓也（*当財団創設者）がカンボジア王国友好勲章大十字型章を受章（2010年）

長年にわたるカンボジア王国への環境・社会貢献活動がカンボジアの経済、文化交流の発展に貢献したと評価を受け、当財団創設者で公益財団法人イオン環境財団理事長である岡田卓也が、カンボジア王国より2007年に「Le Grand Officer（将校章）」を、また、2010年には最高位である「Royal Order of Sahametrei Grand Cross（友好勲章大十字型章）」を親授されました。



【カンボジアでの植樹活動について】

■アンコールワット植樹（2002年、2004年、2005年）・

アンコールワット遺跡群チャウスレイ・ヴィヴォル遺跡植樹（2010年、2011年）

カンボジア プノンペン植樹（2015年、2016年、2017年）

■イオン ふるさとの森づくり（2014年）

公益財団法人イオン環境財団は、2002年および2004年、2005年の3年間にわたり、世界遺産アンコールワット参道脇に880名を上回る方々と7,100本の植樹を行いました。

2010年、2011年には、アンコール王朝の遺跡周辺に風雨から遺跡を守る森をつくるべく、340名の方々とともに3,260本の木を植えました。

2015年から2017年の3年間は、プノタマウ野生生物保護センター内の森林再生と生物多様性の保全に取り組むため、2,400名の方々とともに21,000本の木を植えました。

2014年6月にはイオンモールプノンペンのオープンに先駆け、イオングループによる「イオン ふるさとの森づくり」が開催され、地域の皆さま1,500名とともに、約10,000本の植樹を行いました。

